

日時：2015年7月30日（木） 11:40～12:00

質疑応答

Q：通信キャリア向けが厳しい状況のようですが、全社としては想定通りの進捗なのでしょうか。

A：通信キャリアの設備投資抑制が当初想定していたよりも更に厳しい状況でありますが、一般企業向けなど堅調な分野もあり、全体としてはほぼ想定通りの進捗となっております。

Q：営業利益の増益要因として、SG&Aの効率化が挙げられていますが、具体的にはどのような事を行ったのでしょうか。

A：グループ会社も含め、当社グループ全体で、オフィスの統合などの見直しを実施し、オフィスに関わるコストの効率化を図りました。それに加えて、通信費の削減やテレビ会議を積極活用することで出張費を削減するなど個々の項目においても削減を進めました。

Q：海外事業の受注が伸びているとの事ですが、どのような分野でしょうか。

A：タイ、ミャンマーなどで通信などのインフラ工事が旺盛です。ミャンマーでは現在携帯電話を中心とした通信インフラの整備を急ピッチで進めています。

Q：営業利益について、第1四半期が増益だった一方で、上期予想では前年同期比横ばいです。つまり、第2四半期は減益の予想となりますが、これは昨年度第2四半期の利益水準が高かった為でしょうか。

A：昨年度は、第1四半期に予定していた案件が第2四半期に期ズレした事などもあり、営業利益が第2四半期に偏ってしまいました。当社としては、上期として、前年並みの営業利益を目指しています。

Q：消防・防災システム事業について、受注面では減少しましたが、売上は増加しました。上期、今年度の見通しについて教えてください。

A：消防・防災システム事業の受注は大きく減少しましたが、受注残を背景に上期は前年並みの売上を計画しております。今年度については、売上についても前年同期比で90億円の減収を見込んでいます。

Q：消防・防災システム事業の売上減少が見込まれる中、通期売上の会社計画は横ばい維持となっておりますが、何が業績を牽引するのでしょうか。

A：一般企業向けの事業環境は堅調に推移しており、当該マーケットを中心とする企業NWの成長が全社の業績を牽引していく計画です。今第1四半期における企業NWの受注は、前年の大型案件の影響で減少となっておりますが、同事業の受注残は前年同期から増加しております。

Q：第1四半期は、SG&Aの効率化が業績に寄与しておりますが、通期のSG&Aの見通しについて教えてください。

A：成長投資や業務効率化に向けたシステム投資を計画していますが、SG&A全体ではあまり大きく増えないようにマネジメントしていきます。

Q：通期計画では営業利益が微増益の中、当期純利益が大きく伸長する計画ですが、どのような要因があるのでしょうか。

A：昨年度は、国内子会社再編等に伴う特別損失や、実効税率の引下げによる繰延税金資産の取崩しが発生した影響がありました。今期も国内子会社再編等に伴う特別損失を見込んでおりますが、昨年度と比較すれば、このような特殊要因が減少する見込みのため、今期は当期純利益が伸長する計画となっております。

Q：配当性向や自社株買いの是非など、株主還元の考え方について教えてください。

A：当社は安定配当をベースにしており、配当性向についてはお約束していないながらも、現状の水準は意識しています。昨年度も、特別損失などで当期純利益は減益となりましたが、安定配当がベースという事で、足元の事業環境などを鑑みて、配当を増やしても大丈夫と考え、期初計画通りの増配としました。自己株買いについては、流動性の低下などのマイナス面も考えられ、まずは配当を株主還元の中心に据えて考えたいと思います。

以上